



TEAM238 かわらばん

2009年(平成21年)10月20日
第2号

藤沢市地域経営戦略100人委員会会報

この号の内容

- 1 第2回会議を開催しました
- 2 藤沢まちづくり講座を開催!
- 3 「ふじさわ総合計画2020」と今を検証する①
- 4 ワールド・カフェの活用事例
- 5 第3回総合計画審議会が開催されました

藤沢市地域経営戦略 100 人委員会は、地域の個性やニーズにあった地域完結型のまちづくりを進めるために、地域や市域での課題の抽出や、課題の解決を進め、新総合計画の策定と実行に対する意見提案などを行う会議です。

委員は、各地区の地域経営会議などからの推薦委員と一般公募委員により構成され、委員会は、まちづくりコーディネーターにより運営されます。

この「TEAM238 かわらばん」は、地域や藤沢の将来像を描くためにご協力いただいている委員の皆さんの委員会での活動をご紹介しますとともに、委員会での会議の進め方などの手法についてのご説明をいたします。



第2回会議を開催しました

9月20日に第2回藤沢市地域経営戦略100人委員会を開催しました。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスを会場に、少し秋めいたキャンパスで、晴天の中、すがすがしい空気に包まれた1日でした。

開会にあたって、海老根市長からの挨拶の後、長瀬経営企画部長、玉村コーディネーターより、新総合計画策定に当たっての、100人委員会の役割などの説明がありました。

新総合計画の策定において、地域経営戦略100人委員会では、現在は、「藤沢らしさ」「30年後の藤沢らしさ」という観点から“基本構想(未来へ向けた構想)”策定に必要な、藤沢の将来像を導き出すための、生活実感にもとづいた“鮮度の良い素材”の提供を進めています。この素材は、総合計画審議会でも、様々な観点から集められた素材とともに活用され、切れ味よく基本構想をまとめ上げていき、100人委員会と総合計画審議会の合同協議などを通じて、関係者協働で磨き上げていく流れになっています。また、100人委員会では、今後、「ふじさわ未来課題」として、分野や地区で、魅力を伸ばすための課題や克服すべき課題などを丹念に調べていき、協働での検討活動を踏まえながら深く追いかけていき、基本計画の素地を整えていきます。

先日の委員会当日は、「30年後の藤沢らしさ」について、「風景」「自慢」「残したい」「実現したい」「環境」「変化」「未来からのお願い」「継続」といったテーマに分かれて、前回と同様にワールド・カフェによってお話し合いをいただきました。緊張も解け、リラックスした雰囲気の中で、前回以上に、「らしさ」のご提供をいただきました。

連休中にもかかわらず、多数のご参加をいただきありがとうございました。



「藤沢まちづくり講座」を開催！

第1回：鵠沼の実践活動に見るまちづくり～ニコニコ自治会の取り組み



今回初めて、地域経営戦略100人委員会の開催に先立って、藤沢市内のまちづくり活動を紹介する「藤沢まちづくり講座」を開催しました。第1回目は「鵠沼の実践活動に見るまちづくり～ニコニコ自治会の取り組み」として、藤沢市南部の鵠沼松が岡にある自治会：ニコニコ自治会のまちづくりチームの高橋武俊氏（慶應義塾大学助教）にご講演いただきました。

=====

湘南の住宅街の鵠沼にあるニコニコ自治会は、「住み心地の良いまちの環境を守ろう」と住環境を守るまちづくりに取り組んでいます。

きっかけは、地域の街並みを形成している松林や邸宅がこわされ、ミニ開発が増えたことにありました。鵠沼らしさの源となる大きな木々や緑を全く残さず更地にしてしまう開発は、事業者と住民、更には新しく住む人との間にトラブルを生みやすく、開発の度に自動車交通量の急増が繰り返されるなど、地域コミュニティにとって大変負担がかかる問題になっていました。

まちづくり活動は2003年に始まり、地域の全世帯からの声を聞いて方向を定める意識調査を「現状の把握 ⇒ 地域イメージの具体化 ⇒ 必要な取り組みの具体化」と段階的に行い、2006年には地域からの意志表示として「ニコニコ住民協定」を策定するに至りました。そして、実際にルールの実運用を通じて、事業者・市・住民とそれぞれの立場の事情の把握を行い、現在、住民協定をより適切な形に調整するために、新しくできた景観法を利用する検討を進めています。

ニコニコ自治会のまちづくりは、住んでいる人の生活価値である「住み心地の良さ」を活動の幹にして枝葉を育てており、自治会内では防災・子育て・防犯などの活動と連動しながら、自治会外では近隣する9つの自治会と2つの市民団体、そして藤沢市と連携しながら、4000世帯を超える規模の“自治”のまちづくり活動へと発展していっています。

=====

自分が日常の生活の中で感じている地域の問題点や違和感は、他の人も同じように感じているにも関わらず、なかなかそれを表明したり、取り組みを始めたりすることは難しいものです。時には「誰かがやってくれるだろう」「もう手遅れだよ」となってしまうかも知れません。しかし、放っておいて良くなることはありませんし、他の誰かが進める問題解決の方法が、自分が望む方向性にあるとは限りません。「この地域の生活スタイルは自分たちで決める」といった気概と行動が、地域に新しい活力の連鎖と「らしさ」を生み続けることになると思います。

【ニコニコ自治会のまちづくりの3つの経験知】

■1. 実際に動く人にとってわかりやすい仕組み

住んでいる人の全てがまちに対して意見を言えますが、重要な決定をする際は、住民・行政・事業者・学者の全てに必要な知識の習得と適切な段取り、諸施策の整合性が必要です（縦割り・違和感の解消、わかりやすい入口）

■2. まちの可能性を前向きに検討できるプロセス

個人や特定分野の固定観念に囚われず、一人一人が持つ色んな想いや知恵、経験をまちの可能性と捉え、前向きに・段階的に検討できるプロセスが必要です（議論のレベルアップ、関係者が成長するプロセス）

■3. まちの魅力を育てることが判断基準

多くの関係者と色んな意見や提案が飛び交う中でも、中長期的なまちの魅力に影響する内容が優先されます（優先事項・落とし所の明確化）



「藤沢まちづくり講座」のテーマや講演・発表者を募集しています。地域のまちづくりや活動についての経過や成果、課題などについて、発表や議論を交わす機会です。自薦・他薦は問いませんので、ご連絡をお待ちしております。（経営企画課 電話 0466-50-3502）

「ふじさわ総合計画2020」と今を検証する①

「ふじさわ総合計画2020」の基本構想は、1999年(平成11年)に策定されたことは、前号でお知らせをしました。基本構想は、「湘南の海にひらかれた生涯都市藤沢」とされ、人・交通・情報等のネットワーク、自然環境、既存産業の活性化、安全・安心、情報公開、生涯学習・地域文化、市民協働などが基本目標に定められています。

しかし、策定以降の社会情勢の変化は著しく、社会・経済・行政などの様々な分野で、予想をはるかに超えた事態が発生しています。

今回から、総合計画の前提となる藤沢市を取り巻く社会情勢の変化を検証します。

少子高齢化の進展

まず、藤沢の主人公である市民の皆さんのメンバー構成について検証します。

「少子高齢化」と言われて久しい感もありますが、新総合計画の策定の検討に当たり、基礎資料として、将来人口予測を行ったところ、予想以上のスピードで進展していることが明らかになりました。主な特徴は、次のとおりです。

少子化の進展により「人口減少社会」が到来する

- * 年少人口(0～14歳) 2005年(平成17年) 14.1% → 2035年(平成47年) 9.6%
- * 藤沢市の人口は今後も増加傾向で推移し、2020年(平成32年)頃に約41万7,000人でピークを迎えるが、その後は減少する。
2005年(平成17年)396,014人 → 2035年(平成47年)391,765人(▲4,249人)

高齢化が一段と進む

- * 高齢者人口(65歳以上)2005年(平成17年)16.5% → 2035年(平成47年)32.4%

人口は減っても、世帯数の増加は進む

- * 藤沢市の世帯数は、単身世帯の増加などを背景に、一貫して増加傾向にあり、2015年(平成27年)には18万世帯を超え、2035年(平成47年)には、約19万9,000世帯になると推計される。

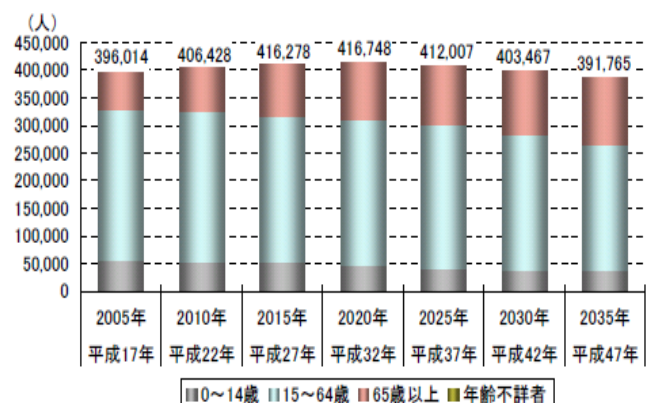
産業別人口において第2次産業の減少が顕著である

- * 長期的にみると、第1次産業は1970年当初より、第2次産業は1990年より減少傾向であり、この傾向は今後も続くことが見込まれている。
- * 第3次産業の就業者・従業者数は増加し続けているが、今後は人口・生産年齢人口の減少によって横ばい・微減傾向となり、2025年度以降は大きく減少していくことが予測されている。

13地区ごとに人口のピークや少子・高齢化の進展は異なる

- * 2035年(平成47年)までの13地区別人口推計では、各地区の人口ピークは2010年～2030年の間に分散しており、一律ではない。
- * 2035年(平成47年)の推計人口が2005年(平成17年)国勢調査値よりも減少傾向の地区は辻堂、藤沢、善行、湘南大庭、長後、御所見の6地区、増加傾向の地区は村岡、六会、湘南台3地区。
- * 2035年時点で高齢化率の高い地区
①湘南大庭 38.1% ②片瀬 35.7% ③善行 35.1%
④藤沢 34.1% ⑤鵜沼 34.0%

藤沢市の将来人口



ワールド・カフェの活用事例

「藤沢カフェ」「30年後のふじさわカフェ」で用いた「ワールド・カフェ」という手法ですが、横浜市でも「イマジン・ヨコハマ」という、都市ブランドづくりのプロジェクトの中のワークショップで実施されました。

「イマジン・ヨコハマ」は、横浜の都市ブランドづくりにおいて、お互いの意見を共有しながら議論を発展させていき、横浜への誇りや愛着心を高め、自立的なコミュニティを形成することを目的としています。また、横浜市は、ワールド・カフェをはじめとした幾つかの手法からの意見をもとに都市ブランドをまとめ、将来の都市経営に役立てるとしています。

これまで、藤沢市の地域戦略100人委員会で話しあった「藤沢らしさ」も、基本構想の素材として活用していくとともに、この「藤沢らしさ」と基本構想の方向性をもとに、基本計画づくりを通じて、よりよい未来づくりの取り組みをすすめていく予定です。地域経営戦略100人委員会と「藤沢らしさ」から、次の世代に受け継がれる、誇りある藤沢とコミュニティづくりに取り組んでいきましょう！



第3回総合計画審議会が開催されました

10月3日に第3回総合計画審議会が開催されました。

総合計画審議会は、市議会選出議員、学識経験者、関係業界団体、行政職員で構成され、市長の諮問にもとづいて、総合計画の基本構想と基本計画の答申を行います。

総合計画審議会では、「地域経営戦略100人委員会」や「地域経営会議」、市役所の「庁内新総合計画検討会議」「わいわい・がやがや・わくわく会議」において、それぞれ検討されている、藤沢市の生活実感から考える「藤沢らしさ」「未来の藤沢らしさ」、「将来予測にもとづく課題」「藤沢の“強み”と“弱み”」、また地域経営会議で検討いただいた「地区ごとの課題や実感」等から、藤沢の将来像やビジョンを検討しています。

第3回総合計画審議会では、基本構想に向けて、切り口（テーマ）や軸（視点）などの進め方の確認・検討を行いました。



藤沢市地域経営戦略100人委員会事務局(藤沢市経営企画部経営企画課)

(監修:まちづくりコーディネーター)

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1

電話番号:(0466) 50-3502

FAX 番号:(0466)50-8402

電子メール: kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

